

東京農工大学 大学院生物システム応用科学府

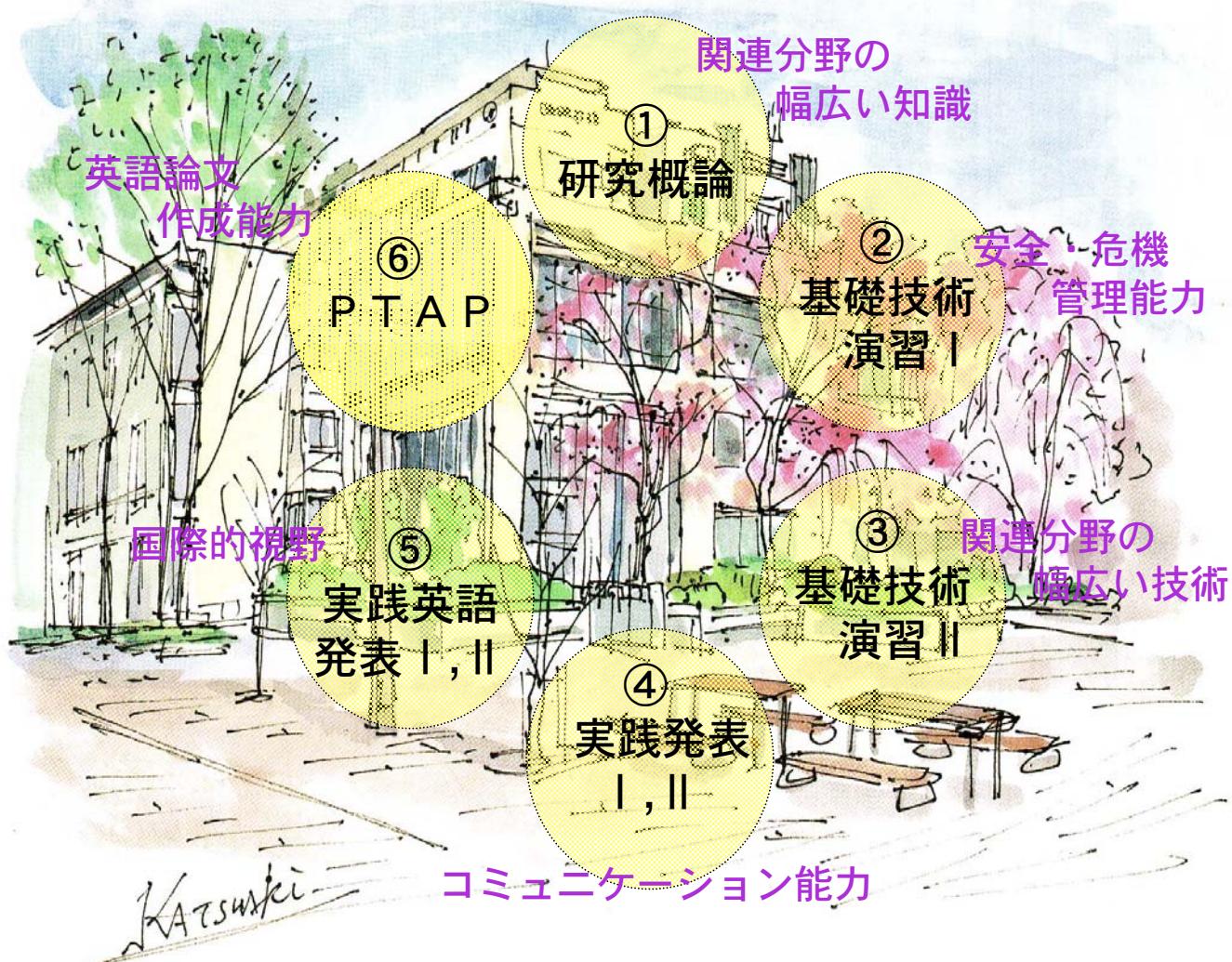
「ラボ・ボーダレス大学院教育の構築と展開」

(文部科学省 平成19年度 採択
大学院教育改革支援プログラム)

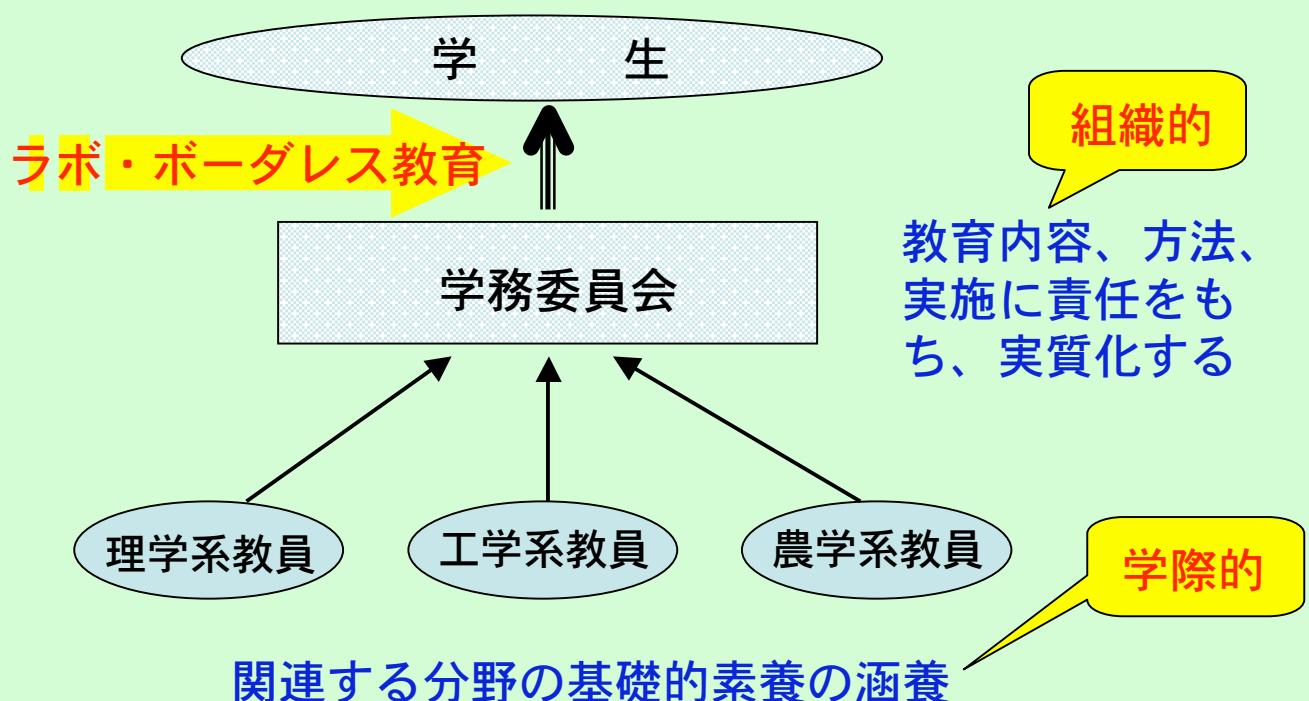


本学府は農学、工学、理学を融合させた新しい科学技術分野を構築し、これを身に付けた人材の育成を目的として、平成7年4月に設立された独立研究科です。平成18年度には、大きなカリキュラム改革を行い、これまでの研究室内の大学院教育から、研究室の枠をとりはずした組織的な大学院教育への転換をはかり、発展させていきます。

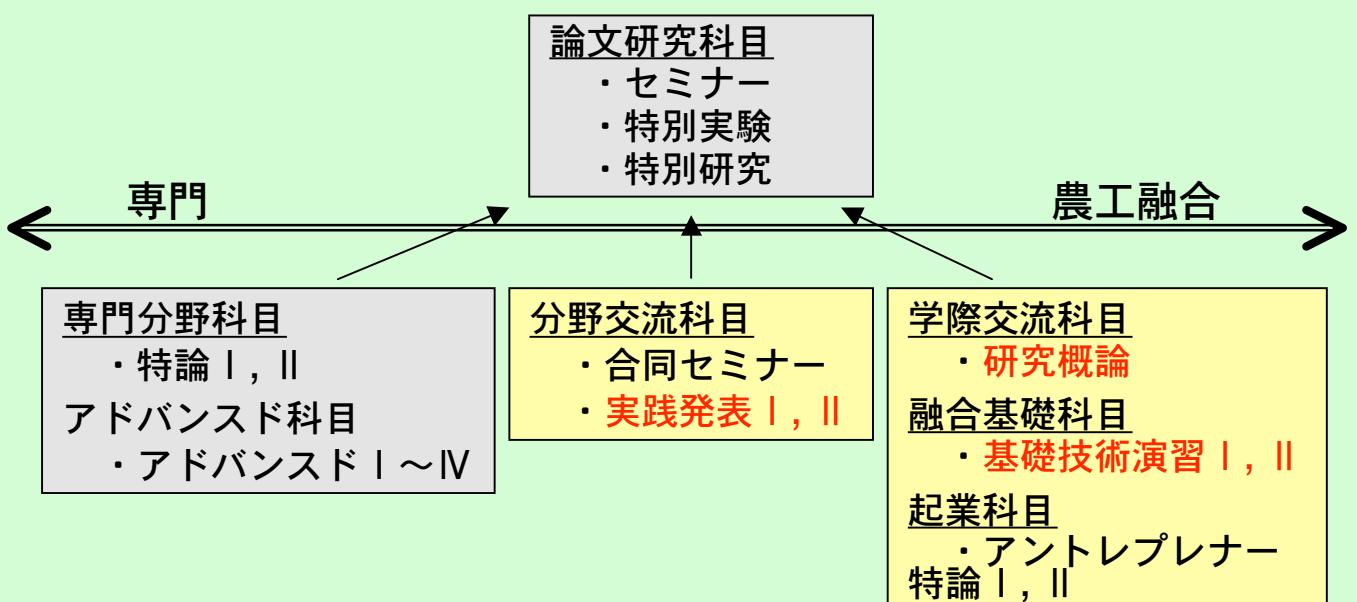
六つの柱



大学院教育改革支援プログラムの計画と特色



本専攻の前期教育課程（コースツリー）



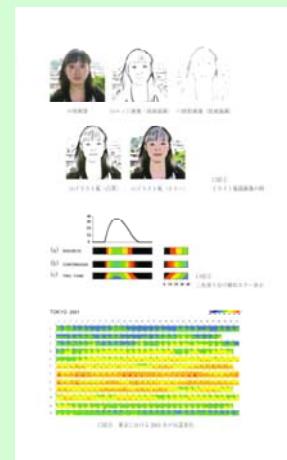
平成18年度から導入したラボ・ボーダレス教育科目（赤字）

① 研究概論（関連分野の幅広い知識）

[前期課程、必修科目、2単位]

農学系、工学系、理学系の教員が協力して教科書を作成！
eラーニング化もほぼ完成！

- ・生体分子の柔軟性と多様性－内部回転
- ・触媒、その機能と歴史的役割
- ・生物に学ぶ無機材料開発
- ・微粒子のはたらき－あらゆる分野に顔を出す微粒子の不思議
- ・温暖化ガス（二酸化炭素）の化学的有効利用
- ・生物や社会の動きをモデルで理解する
- ・人間の視覚に訴えるコンピュータグラフィックス
- ・人体内部の可視化と診断－“見る”と“診る”
- ・ハード・ソフトを融合した未来の超音波医療
- ・環境に配慮した生産加工技術
- ・環境調和型エネルギー系統の展望と課題
- ・害虫との戦いの陰と光－有機合成農薬、不妊虫放飼法、交信攪乱法
- ・昆虫の病気の世界がバイテクとハイテクに繋がった
- ・植物の病気を防ぐ
- ・木質バイオマス利用の今日と明日
- ・国際標準を知ろう



② 基礎技術演習Ⅰ（安全・危機管理能力）

[前期課程，必修科目，1単位]

全ての研究・技術開発に先立つ安全意識の徹底！
多様な技術分野の安全教育！
安全安心を提供できる研究者・技術者の摇籃！
ネット社会で役立つ安全・危機管理、情報倫理が重要！

1. 自分の安全を守るために（序論）

事故を予防する心構え

具体的な事故予防策

廃棄物の処理について



2. 法律的に守るべきこと（化学系）

RI・放射線の安全な取り扱い

大学とくに農工大の事故事例

ガラス器具の安全な取り扱い

薬品の安全な取り扱い



3. 機械類の安全運転（機械系）

一般的な注意

起こりやすい事故

機械による事故例



4. バイオハザードについて（生物系）

微生物実験の安全

動物実験の安全

組み換えDNA実験の安全

生物実験に関係した事故事例の研究



5. 情報倫理とセキュリティ（情報系）

情報倫理と情報セキュリティ



6. 避難訓練（消防署の協力）

災害（地震、火災等）発生時の対応

防災要項の概要説明

③ 基礎技術演習Ⅱ（関連分野の幅広い技術）

[前期課程，必修科目，1単位]

異分野の研究室で、小人数で最先端の研究技術を学ぶ！
TA, RAに教育経験の場を提供！
学外見学（農学系、工学系の工場）への参加！

募集案内の例

（課題番号 14）脳波を用いた癒しの検出、ストレス検証、脳波コントローラの検証

（担当者）満倉 靖恵

（概要）人間の脳波はアルファ波、ベータ波、シータ波、ガンマ波など様々な周波数に分解することができる。睡眠時の脳波種類も周波数によって様々な名前がつけられている。とくにこの演習では、脳波から睡眠に入る前の「眠気」に着目し、眠気が起こる際の脳波と平常時の脳波との差（いわゆる眠気脳波）を特定し、居眠りを脳波のみから検出する技術を習得する。成績はレポートで評価する。

（受入人数）7人

（実施日）10月29日（月）13:00～18:00

（集合場所）BASE本館619号室

上記課題の実施風景



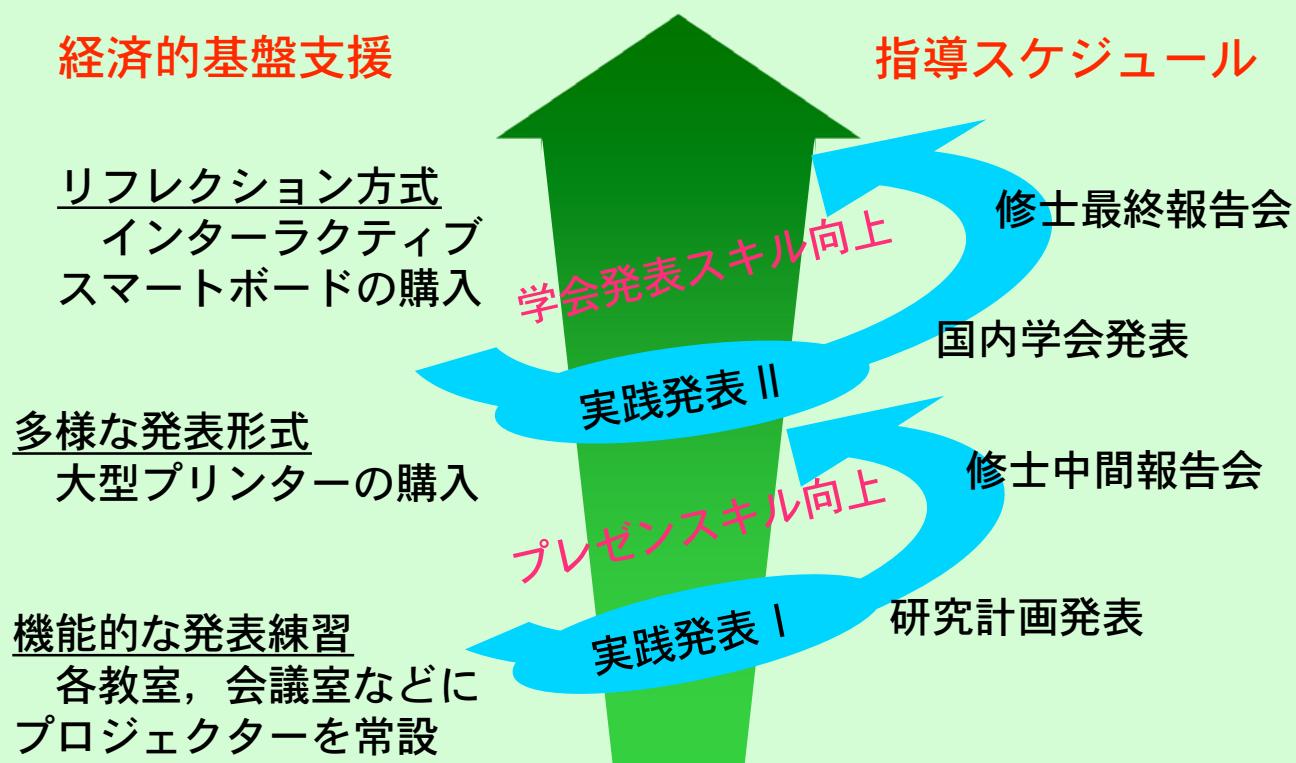
- 1) まず説明があり、2) 次にTAの指導のもとで実験方法を教わり、3) 各受講生自らが実験を行い、4) 結果に関して解説が加えられ、最後にレポートが課された。

④実践発表（コミュニケーション能力）

[実践発表Ⅰ，前期課程，必修科目，1単位]
[実践発表Ⅱ，前期課程，選択科目，1単位]

関連分野の複数の教員が発表法を指導！
スライド作成法，プレゼンテーション技術，質疑応答法！
→ 異分野の人にもわかる研究成果発表

各専修の研究計画発表会で実践，専修全教員で採点評価
採点重点項目（大きな声，見やすい図，質問の理解）



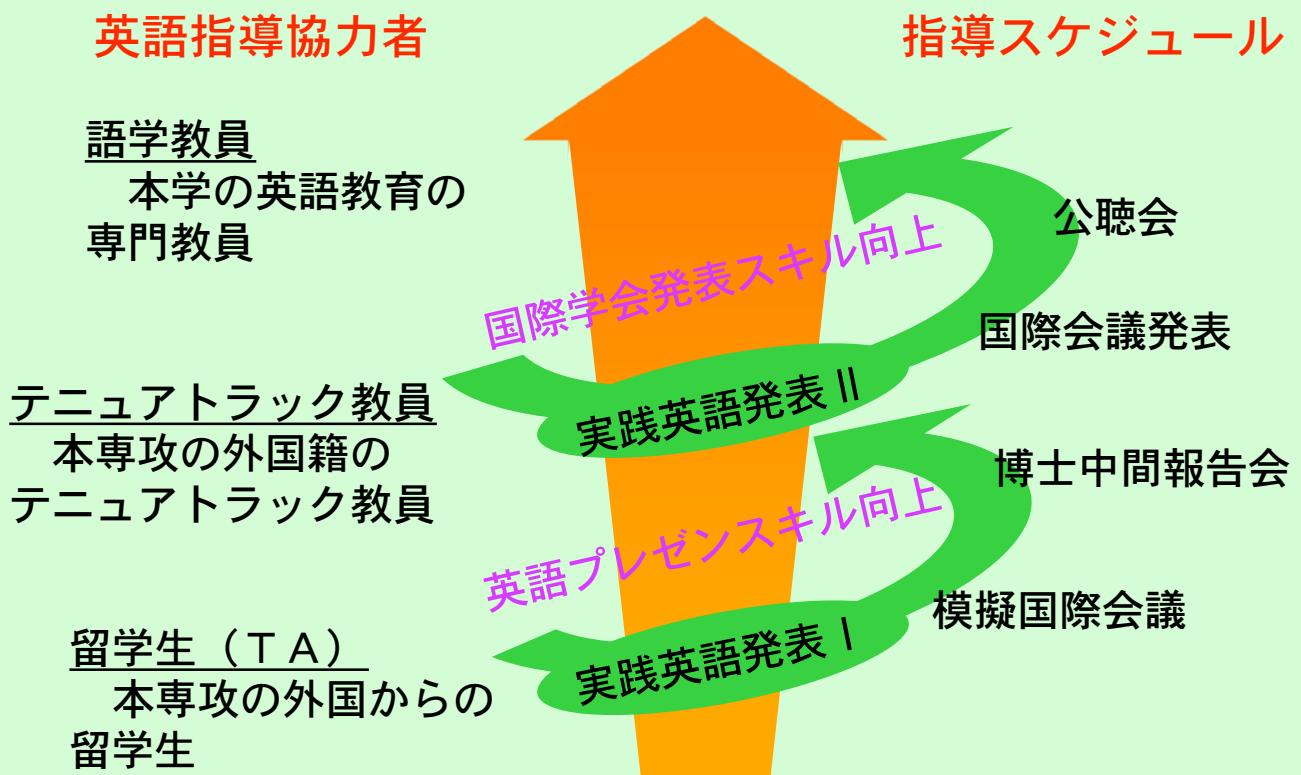
プレゼンテーション+コミュニケーション
能力向上のためのスパイラルアップ教育

⑤実践英語発表 (英語コミュニケーション能力)

[実践英語発表Ⅰ, 後期課程, 選択科目, 1単位]

[実践英語発表Ⅱ, 後期課程, 選択科目, 1単位]

関連分野の複数の教員、語学教員（ネイティブスピーカー）、留学生（TA）が模擬国際会議を開催！
→ アブストラクトの書き方、プレゼンテーション資料の作り方、英語での講演、質疑応答のやり方を総合的に指導



英語プレゼンテーション+英語コミュニケーション
能力向上のためのスパイラルアップ教育

⑥PTAP (Publication Technical Assistant Prof.)

優れた英語論文を数多く発表した経験のある退官した教員等が学生にマンツーマンで論文作成を指導！

論文指導例

1. Introduction

Polychlorinated dibenzo-*p*-dioxins (PCDDs) (PCDFs) are mainly emitted from waste incineration. Therefore, adequate management of PCDD conversions of AT \rightarrow ST and AC \rightarrow SC is effective to decrease their burden in the environment. Environment Japan announced that PCDD/Fs emission by 95% between 1997 and 2003 mainly by the Ministry of Environment [2]. Furthermore, the Ministry of Environment over 2003 [3]. Hamada et al. validated the trapping of PCDD/Fs by sampling various waste incineration facilities [6]. EN 1948-1, the European standard for analysis of PCDD/Fs, recognizes a PUFF collection system, which has been validated only for some researchers [8,9]. After all, the number of validated data for both methods is still small.

The revised JIS method also approves various other analytical procedures (extraction and cleanup procedures) after confirmation of the validity of the procedures. Though Soxhlet extraction is a conventional extraction procedure for PCDD/Fs and DLPCBs analysis, it contains such problems as long-term extraction, difficulties in analytical procedures, and power problems of the 5-MP method.

In sample collection for determination of PCDD/Fs and PCDFs, the traditional sampling train (Fig. 1) was revised in June 2005 such that three sampling systems (XAD-2 train (5-MP train), XAD-2 train (5-MP train), and XAD-2 train (5-MP train)) together with toxic 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD) in the USEPA method 23a [8], consists of five impingers and one column (Fig. 2). One of the newly recognized systems of sample collection for determination of PCDD/Fs and PCDFs, conform to the requirements defined by various government institutions (Fig. 3) in Japan, is the traditional sampling train, which is a modified

国際会議の要旨の添削
修士論文の英語要旨の添削
学術論文の添削 · · · · ·